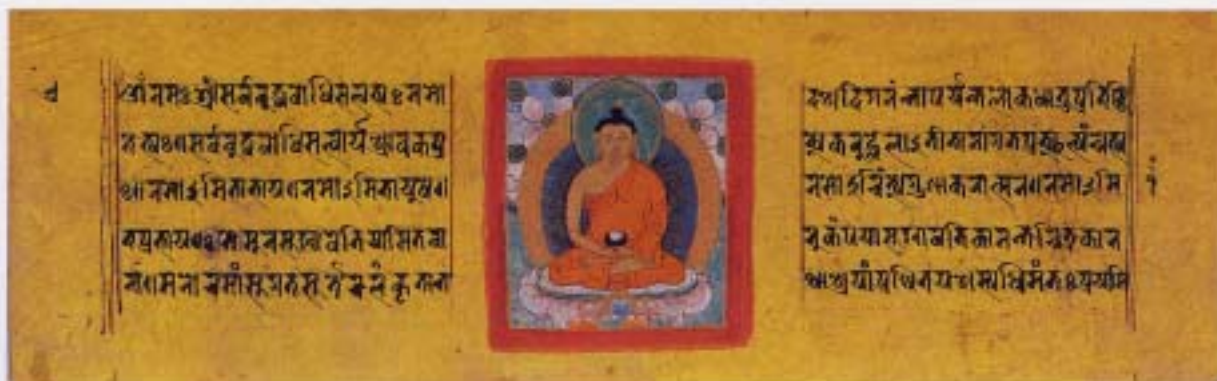


来・ぶらり



（梵本無量寿経（光寿会本c））縦9.9cm×横26.5cm 龍谷大学図書館所蔵

図書館には、「楠本」と「光寿会本」と称されるネパール写本がある。これは「光寿会本」の中の一冊である。写本は阿育陀仏と思われる仏座像で、脚上に両手で香炉を捧げている。

アルバータ大学の図書館の思い出 — “No pains, no gains”（苦は楽の種） 東中 稜代

「来・ぶらり」というこの小冊子の命名はなかなかうまい。英語の “library” を漢字と仮名で表現し、「まっ一度、ぶらりと図書館を覗いてごらん」、と学生諸君を誘っているようである。学生諸君がこの誘いに乗るかどうかは別問題だとしても、昔は本は高価なものだった。オックスフォード大学の図書館で、鎖に繋がれた本を見たことがある。表紙は皮で紙には羊皮紙が使われていた。本は持ち運ぶものではなく、そこに座って読むべきものだった。今の時代では学生諸君は古今東西の知の宝物を図書館で読んでもいいし、家に持ち帰ってもよいのである。諸君はよき時代に生まれたものである。

図書館と聞くと、筆者は大学院の時に留学したカナダはアルバータ大学の図書館のことを思い出す。一般的に言えば欧米の学生は日本の学生よりも図書館をよく利用する。向こうの教師は往々にして長い参考文献のリストを配る。それらに目を通しておかないと勉強についていけないし、いいレポートも提出できない。参考文献は必ず図書館に備えてある。頻繁に使われる文献は何部も揃っている。「学生であること」イコール「図書館に行くこと」と言ってもよい。図書館に行かない学生を待っているのはドロップ・アウトの運命である。教授たちは平気で落第点をつけ、学生は「登校拒否」ならぬ「登校禁止」になる。思えば、そんな憂き目を見ることのない日本の学生諸君は幸せである。

日本でも次第にそうになってきたが、アルバータ大学の図書館には教員と学生の研究や勉強に供するためのプロが何人もいた。 “library science”（図書館学）という言葉が示すように、図書館を運営することはサイエンス（学問）なのである。 “librarian”（司書）は尊敬され、その職責は重い。20世紀後半のイギリスの大詩人、フィリップ・ラーキンが司書を一生の仕事とした。信頼すべき司書たちに運営を委ねて、アルバータ大学の教員も学生も図書館にせせと通うのであった。

アルバータ大学では、同じ日本の友人と夕食の後、よく図書館に通った。専門が違ったので行く階は異なった。図書館は夜中の12時まで開いていた。時間になると合図のベルがなる。すると各階からぞろぞろと大勢の学生が降りて来る。友人と筆者は出口で待ち合わせ、ある種の充実感を覚えながら寮に戻った。若かったのでお腹がすいた。「腹減らないかい」「べこべこだよ」といった会話が交わされ、中華の出前をとることとなる。 “No pains, no gains”（苦は楽の種）という英語の諺があるが、勉強（ “pains” ）の後の中華料理はことさら旨かった（ “gains” ）。

学生諸君も遅くまで図書館で勉強した後で、ビザの出前でも頼んだらいいが。そんな折りの味の旨さは筆者が語れますから。

（国際センター長・文学部教授）

目次

アルバータ大学の図書館の思い出	国際センター長・文学部教授 東中 稜代	1
図書館ニュース		2
●中国・大連図書館と姉妹友好関係に	●大連プロフィール	●資料で見る大連
数字で見る図書館		6
公募エッセー 図書館の大切さ	（文学研究科修士課程1年生）	奚 曉寧
図書館の中の中国文化	（国際文化学部4年生）	夏 晔

図書館ニュース

中国・大連図書館と姉妹友好関係に

昨秋、龍谷大学図書館と中国・大連図書館との間で「姉妹友好関係」を結びました。

日本の私立大学図書館と外国の公共図書館が友好関係を結び、新たな学術交流を計るというケースは珍しいと注目されています。

大連図書館は、中華人民共和国成立後の1951年に、「南満州鉄道株式会社大連図書館」の蔵書45万冊を基礎に設立されたもので、日本統治時代の図書や記録資料を多く含み、約210万冊の蔵書数をほこる中国でも有数の公共図書館です。中でも、西本願寺第22代門主大谷光瑞師が昭和16年頃までに旧満鉄図書館に寄贈したいわゆる「大谷文庫」を所蔵する事で有名です。

その「大谷文庫」の大半が「写字台之蔵書」という蔵書印が捺印されているように、本願寺歴代門主の蔵書本であった「写字台文庫」であるということです。「写字台文庫」は、龍谷大学図書館にも約4万点にのぼる蔵書が所蔵されており、学術的にも極めて貴重な資



▲大連図書館



▲調印を文す大連図書館・張館長(左)と本学上山学長(右)

料で、目下その調査・研究を進めているところです。

龍谷大学と大連図書館とは、前述のように同額の「写字台文庫」を保管する因縁を有し、また、アジア近代史研究の重要資料である旧満州統治時代の記録資料を有する点から、双方友好的に閲覧等の便宜をはかり合う必要性を痛感し、この度の姉妹

友好の協定を結ぶことになったのです。

なお、大谷光瑞師によって組織された大谷探検隊が、1902(明治35)年—1914(大正3)年の間3回にわたり、中央アジアはもとより、インド・ネパール・チベットなどの探検を行い、多大の収集品を日本に持ち帰りました。その資料は光瑞師の別宅であった神戸・二葉荘に集められ研究されていましたが、事情により売却されたりして他所に移ることになり、その一部が現在旅順博物館に所蔵されています。大連図書館と姉妹友好関係を結んだことはこの旅順博物館をも利用できる近道にもなるということで大変意味があります。



▲2000年12月12日 京華新聞朝刊

大連プロフィール

大連は遼東半島の南端に位置し、三方を海に囲まれた坂の多い港町です。緯度的には日本の山形県、宮城県あたりですが、気候は海洋性気候です。日本に比べると雨が少なく乾燥していますが夏は涼しく、有名な避暑地として観光客で賑わっています。

1898年に帝政ロシアの租借地となるまでは小さな漁村にすぎなかったのですが、港湾建設が始まり、1905年の日露戦争後は大連の利権は日本が受け継ぎました。そのため、大連はロシア風の街並みや上野駅に似せた大連駅、旧大連警察署など日本人設計の洋風建築が数多く建てられ、現在も当時のエキゾチックな建物がいくつも残っています。

大連市が経済技術開発区に指定されてからは、積極的に外資と外国企業を誘致し、大連及び東北地方

の重要な工業地帯と輸出窓口として大きく成長してきました。今では日本のキャノン、オムロン、東芝を始め1000社以上の日系と外国企業が参入しており、「北の香港」を謳い文句に物流インフラの整備と金融・情報を柱とする第三次産業の育成に力を注ぎ、都市計画を推進しています。外資企業の進出・自由市場の活況著しい大連の変化は目をみはるものがあります。状況や環境の変化に対して、人々の考え方は依然として「大陸的」ですが、日本人にはなじみのある土地柄です。大連は中国北方でハルビンと並んで美人の多いところでも有名で、服装も個性的で華やかです。

大連のおもなイベントとしては5月下旬に開催される「大連アカシア祭り」、9月中旬の「中国大連国際服飾節」、10月下旬の大連国際マラソンなどがあります。



▲遼寧省対外貿易経済合作庁（旧大連警察署）



▲大連の街並み

では、図書館を活用して大連に関する資料を集めてみましょう。

総人口	約540万人
総面積	12,573.83平方キロ
GDP	926.3億元
輸出入総額	74.6億米ドル(1998年実績)
平均収入	6,093元/年
気温	年平均10.3℃(最低-8.4℃ 最高32℃)

市内人口	約174万人
市街地面積	2,419.96平方キロ
GDP成長率	12.2%(1998年実績)
1元	約14.12円('01.1現在)
住宅面積	8.33㎡/1人あたり

資料で見る大連

みなさん、「図書館には難しい本ばかり並べられている。」と思っていませんか？図書館は“情報の宝庫”です。みなさんの活用次第で、欲しい資料を手に入れたり興味あるテーマを見つけたり、楽しい空間に変わります。ここでは、大連を中心に歴史・文学・芸術・語学と様々な分野を紹介します。

(詳しい資料の探し方は「来・ぶらり」20・21号を参照してください)

二〇三高地

1904年2月、日本とロシアは、朝鮮半島そして中国東北地方の支配権を巡り激突。日露戦争が始まりました。旅順にある、二〇三高地は激戦が繰り広げられた戦場として有名です。この戦争が、日本の植民地政策の加速度を増す大きな要因となりました。皆さんはこの事実をどの様に受け止めますか？

日露戦争 / 古岡哲夫著：中央公論社（中公新書110）
<瀬田図書館 開架>



Lushun



旅順博物館

旅順には軍港があるため、外国人に解放されているのは、二〇三高地と水師営会見所のみで旅順博物館は公開されていません。ところが、この旅順博物館と麗谷大学は、大谷探検隊収集品を所蔵しているという点で、深いつながりがあります。1989年には本学創立350周年の記念事業の一環として、旅順博物館との共同研究が進められました。この詳細は「麗谷 1996 NO.34」に掲載されています。

大谷光瑞氏寄託経巻目録 / 小田義久、中田真郎共編：麗谷大学仏教文化研究所
<大宮図書館 開架禁帯>

Dairen

アカシア祭り

大連ではアカシアが白い花を咲かせる5月下旬頃、「アカシア祭り」が行われます。京劇、書法コンテスト、万人扇揚げ大会などが催され民族文化をアピールするイベントが盛りだくさん！アカシアといえば清岡卓行が「アカシアの大連」で芥川賞（S.44）を受賞しています。かつて日本人が愛した街は、今や世界各国からの観光客で賑わう街となっているようですね。

アカシアの大連／清岡卓行著：小学館（昭和文学全集30）
＜深草図書館 開架＞



ガイドブック

図書館では国内外の各種ガイドブックを取り揃えています。観光旅行や語学留学、調査旅行…。下調べは万全ですか？



語学教材

あなたは何語に挑戦しますか？入門編から応用編まで幅広く語学テキストを用意しています。授業・旅行さらには留学・語学資格取得でスキルアップ！



▲深草図書館 視聴覚室

大連港

現在は鉄鋼・造船・機械・石油化学などといった産業が発達した工業都市「大連」ですが、その背景には海外から大陸への玄関口として大連港の果たす役割は大きかったでしょう。当時の産業を知る手がかりとして長尾文庫（社史・産業史・団体史のコレクション）を所蔵しています。

大連汽船株式会社：二十年略史

／大連汽船株式会社庶務課編輯：大連汽船

＜深草図書館 開架 長尾文庫＞



数字で見る図書館

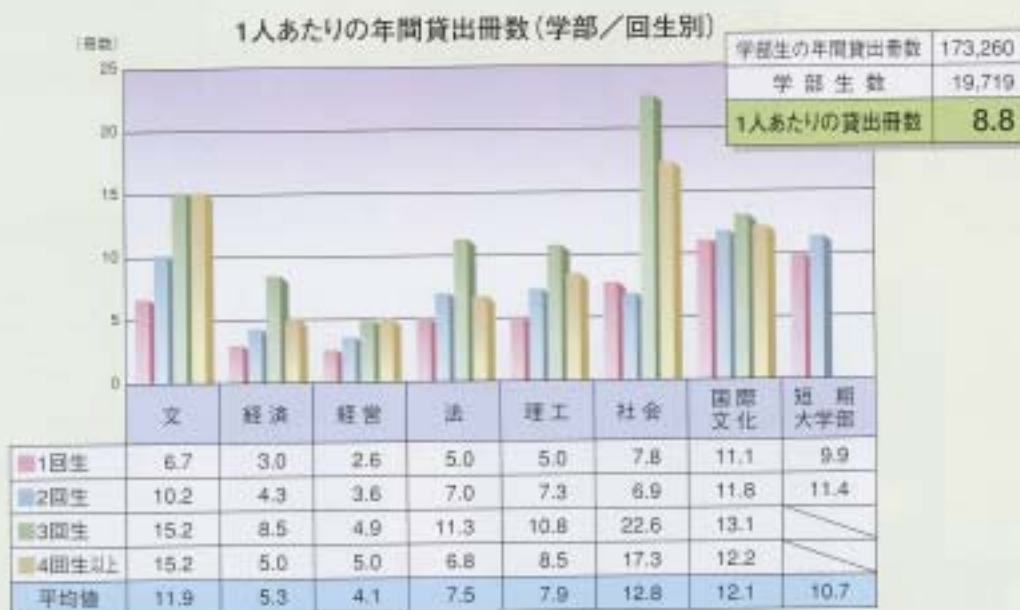
図書館では、皆さんのニーズに応じた様々な情報やサービスを提供しており、それらをいかに使いこなすかが学修を進めていく上でとても大事なこととなってきます。そこで今回は図書館が提供するサービスの一部を、数字を使って皆さんにご紹介します。



この数字は龍谷大学の学部生1人あたりが1年間に借りる資料の平均冊数です。

表からもわかるように、学ぶ範囲がより専門的となる3・4年生になると図書館の資料を利用することも多くなります。大学での学修と図書館とは切り離せない関係で、学生生活を送る上で図書館が大きな味方となってくれるはずです。

普段からわからないことがあったら図書館に足をむけるような習慣をもち、いざ必要となったときには図書館が提供するサービスを最大限に利用し、求めている資料や情報にたどり着けるようになっていきたいものです。



(1999年度データより)



龍谷大学には3つの図書館(深草・大宮・瀬田)があり、皆さんは自分が通うキャンパスの図書館にしながら、別キャンパスの図書館から資料を取り寄せることができます。この数字はそのサービス(学内相互貸借)の1年間の利用件数です。

例えば、全学部の1回生が履修する「仏教学」。いずれのキャンパスの図書館にも仏教関係の基礎的な資料は揃えていますが、文学部の学生が利用する大宮図書館には、より専門的な仏教関係の資料を揃えています。そ

学	舎	貸出数	計
深 草	大宮→深草	1,288	3,693
	瀬田→深草	2,405	
大 宮	深草→大宮	1,648	2,594
	瀬田→大宮	946	
瀬 田	深草→瀬田	2,416	2,927
	大宮→瀬田	511	
合 計			9,214

(1999年度データより)

これらの資料は自分が通う図書館のカウンターで取り寄せ請求ができ、次の日には大宮図書館から資料が届いています。もちろん自分が通うキャンパスの図書館で返却もできます。

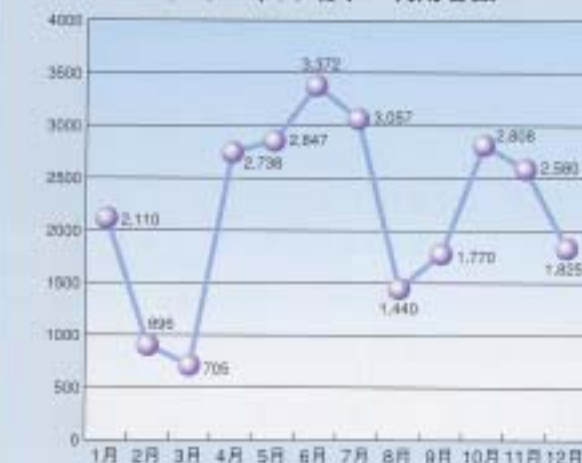
このように、自分が通うキャンパスの図書館資料だけの利用にとどまらず、龍谷大学の3つの図書館が所蔵する資料約150万冊を上手に使いこなして下さい。

95.8人

この数字は深草図書館に設置されているインターネット専用端末の1日あたりの平均利用者数です。各図書館ではインターネット専用端末を設けており、皆さんは自由に使うことができます。

最近では様々な情報がインターネットを通じて提供されており、本からの情報収集だけではなくなってきました。このようなインターネットを利用した情報入手方法は、授業で与えられた課題の調査や就職活動など大学生にとっても必要不可欠なものとなっています。

インターネット端末 利用者数



(2000年深草図書館データより)

2000年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計/平均
利用者数	2,110	896	705	2,738	2,847	3,372	3,057	1,440	1,770	2,808	2,580	1,825	26,148
1日平均利用者数	100.5	42.7	28.2	114.1	118.6	129.7	122.3	90.0	84.3	117.0	107.5	83.0	95.8
入館者に占める利用者率	2.9%	10.1%	9.4%	7.5%	6.3%	6.1%	4.2%	14.7%	7.2%	6.6%	6.2%	5.2%	5.8%

4783冊

この数字は深草図書館で「不在資料」(行方不明の資料)となっている資料の冊数です。(瀬田図書館では1791件、ともに2001年1月現在)

図書館にある全ての資料はその置き場所が決まっており、「不在資料」となった資料はあるべき所に資料がない状態です。

このような不在資料をなくすためには、一度書棚から取り出した資料はそのまま書棚に戻すのではなく、**必ず返本台に戻すようにして下さい。**

また、「不在資料」の中には少なからず「盗難」にあった資料もあります。図書館の外へ資料を持ち出す場合は**必ず貸出手续**をして下さい。あなたがその資料を必要としたように、その他大勢の利用者がその資料を必要としています。

図書館の資料はルールを守り、大切に利用しましょう。

図書館の大切さ

奚 曉 寧

今振り返ってみると、大学時代には図書館を十分に利用せず、図書館の大切さやありがたさが分からなかった思いがする。中国の大学は全寮制の大学で、自習するためには、毎晩夕食前図書館に場所取りに行かないと勉強することができず、図書館の場所取りは印象的で今でも良く覚えている。そして日本語を勉強していた私は、社会に出て日本関係の本を探しまわっていたが、住んでいる都市は大会ではなかったため、図書館に行っても日本関係の図書を手にすることが殆どできなかった。

そういう体験をしていた私は、日本で勉強している今、殆ど毎日図書館に足を運び、「本を読む」という目的以外に「本を手にする」楽しさを感じている。しかも、中

国にいる私と同じ様な体験をもつ友人に、関係資料をコピーして郵送するのは神聖な勤めだと思っている。

「光陰、矢の如し」、日本に来て、まもなく二年になる。そして後一年、慣れ親しんできた大宮図書館に「さようなら」を言う日が近づいているが、適当な言葉が見つからず切ない気持ちになる。しかし、最近新聞で「龍大図書館と中国大連図書館が姉妹友好を結ぶ。仏教、歴史分野で学術交流に期待。」というニュースを見た。いつか「図書館の全面的な交流・グローバル社会の実現」ができると信じている。

(文学研究科修士課程1回生)

図書館の中の中国文化

夏 曄

現在、図書館には世界各国を紹介した本やビデオがある。教室と違って、好きなものが自由に選べる空間である。有限な時間に無限な知識の海洋で泳ぐことは決して夢ではない。その中に一歩足を踏み入れたら、自分が関心を持つ本が必ず現れると私は信じている。

数多く置かれている本やビデオの中から、どれを選んだらよいのか悩んでいる人、また外国のことを勉強したい人には日本と一衣帯水の隣国である中国をおすすめしたい。本学の各図書館では中国に関わりのある資料が約一万冊にも及び、増加し続けている。それらは、中国の天文・地理から人文・芸術まで広い範囲に渡る。中でも私は中国の経済の発展および環境問題に関する本に注目したい。また世界遺産と認定された北京の万里長城をは

じめ、中国の長い歴史の中には数え切れないほどの文化・遺跡が残されている。もし、中国を旅行しようとする人がいるならば、中国を紹介するビデオや、「一人で行く中国旅行」(図書)、「中国旅行会話」(カセット)などを見ていれば、実際行くと必ず役に立つと思う。中華料理に対して関心を持っている人は料理の本を参考にしながら、挑戦してみたらいかがだろうか。中国の他にもいろいろな国の文化を紹介する本が置かれている。またインターネットコーナーも設置されている。自分が今まで勉強した知識をさらに広げようと思う人は図書館を利用し、より豊かな大学生活を送ろう！

(国際文化学部4回生)

エッセー募集

次号に掲載するエッセーを募集します。本や図書館をテーマとしたエッセー(600～650字)なら、なんでも結構です。

*採用された方には粗品を差し上げます。
詳しくは各図書館カウンターまで。

龍谷大学図書館報「来・ぶらり」第23号

2001年3月発行

編集・発行 龍谷大学図書館

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

☎075-645-7885(ダイヤルイン)

図書館ホームページアドレス(<http://opac.lib.ryukoku.ac.jp>)